

平成30年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

教育目標	<p>「豊かな人間性と高い専門性を持ち、産業界の発展に寄与できる実践力のある工業技術者の育成」</p> <p>(1) 感性豊かで、たくましく、心やさしい人間を育成する。</p> <p>(2) 豊かな教養と工業に関する基礎的・基本的な知識と技術・技能を身につけ、科学技術の進展や環境問題、エネルギー問題に柔軟に対応できる人間を育成する。</p> <p>(3) 健康と体力の増進に努め、進んで社会に貢献できる人間を育成する。</p> <p>(4) 忍耐・協調・純真の気風を養い、郷土の自然や文化を愛する心を養うとともに、広い視野を持つ人間を育成する。</p>
------	---

重点目標	<p>【学習指導】○主体的・対話的で深い学びの実現に向けて研究し、確かな学力の向上を図る。○地域、企業、大学等と連携した学びのフィールドで視野を広げ専門性の深化を図る。</p> <p>【生活指導】○「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめや体罰を許さない学校づくりの推進。○基本的生活習慣や規範意識を養うとともに、マナーやモラルの主体性を育む。</p> <p>【進路指導】○キャリア教育を通して勤労観・職業観を養い、学年に応じた生徒の能力開発を推進する。</p> <p>【学校保健・学校安全】○生徒の心身の状況を日常的に観察し多様な健康課題に応じた保健指導を行う。○教室や校舎内外の衛生環境を日常的に点検し、安全・安心な学習環境を整備する。</p> <p>【特別活動指導】○ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等に主体的に取り組む態度を身につけさせ、集団活動におけるマナーや協調性・公共心を養う。○部活動に積極的に参加させ豊かな人間性や協調性、健康でたくましい身体を養う。</p> <p>【新山工建設】○体育館新築、既存校舎解体工事等に伴う危険箇所の点検等、学習環境の安全を確保する。</p>
------	---

評価基準 「A」:達成(ほぼ当てはまる) 「B」:概ね達成(やや当てはまる) 「C」:やや不十分(やや当てはまらない) 「D」:不十分(ほとんど当てはまらない)

番号	評価項目	自己評価			学校関係者評価	総括	
		具体的方策と指標・基準等	目標達成状況及び達成に向けた取組み状況と分析	達成度			次年度に向けた改善等
1	確かな学力の向上と専門性の深化	(1) 互見授業（一人2回以上）、研究授業（実施割合30%以上）により授業改善と確かな学力の向上を図る。	(1) 12月までに研究授業は14中11学科・教科、13名（19.4%）が実施。互見授業報告数34件。	B	(1)(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、学科・教科間の連携を深めながら、授業改善につなげることを意識して研究授業・互見授業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2級土木施工管理技士検定全員合格は素晴らしい成果である。</li> <li>・授業内容の理解について、学科間での差についても今後調査検討していただきたい。</li> <li>・新たな大学入試対策として英検の受験等の外部試験の指導も今後必要になっていくことが予想されるため、対策を検討していく必要がある。</li> <li>・授業理解において、教科・科目間のばらつきがないか、可能な範囲で提示していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな学力育成を目指した授業改善を継続的に取り組み、その成果について検証し着実なものとする。</li> <li>・今後の高大接続に関した情報に着目しつつ大学等の進学に求められる資質と能力の育成に努める。</li> </ul>
		(2) 年2回の授業評価を実施し、課題の抽出と授業改善に活かす。	(2) 生徒の授業評価を9月と1月に実施、授業評価の総合評価指数は前期3.86（後期分は未集計）。		(3) H34年度の新教育課程実施に向け、各教科・工業科にて科目及び単位数の検討を行う。		
		(3) 新学習指導要領に合わせた新しい教育課程について検討する。	(3) 8/8新教育課程講習会に参加。12月までに教育課程委員会を3回開催。	A	(4) 専門にかかわるで国家試験等での合格率の向上に努めるためにも傾向と対策を兼ねて講習会を開催する。また、外部講師を招聘しての講習会も実施する。		
		(4) 各種検定や資格の取得を目指して積極的に挑戦させ、実践力のある生徒の育成を図る。	(4) 基礎となる各種工業高等学校長協会主催の検定において高い合格率を示し、また2、3年生は上級の検定に挑戦し合格している。また、専門に関連する資格検定にも例年以上の合格者が出ている。		(5) 山形県立産業技術短期大学校と連携を密にし、指導助言等でのいろいろな方向の観点から観察、考察できる柔軟性を身に付け研究を深められるよう努める。		
		(5) 高大連携を深め内容の充実した課題研究を推し進める。	(5) 各々が山形県立産業技術短期大学校と連携し、課題研究の方向性や進め方について、助言を受け内容の充実した研究が進められた。また、発表会においても研究の違う視点から追求した場合等さらに研究が深くなるきっかけを示された。				
2	心身の健康と自律的にマナーやモラルを遵守する倫理観と規範意識の育成	(1) 自転車安全運転教室や自転車点検を年度当初に実施し事故の未然防止に努めると共に交通マナーの向上を図るために街頭指導を実施する。	(1) 予定通り自動車学校及び県警生活安全課の協力を得て実施することができた。また、自転車点検もTSマークにより専門の業者から点検を受けより安全なものとなった。しかし、交通マナー及び自転車施設に関する問題が多数見受けられる。また、冬季の日没が早まることやフードなどの防寒具により視界が狭まることでの事故が発生している。	B	(1) 交通ルールの遵守の徹底を図るために街頭指導を期間以外にも実施する。また、自転車施設に関しても交通安全委員会と共に昼休みに巡視を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSに係る問題防止対策として今後も指導の徹底をお願いしたい。</li> <li>・生徒が集団になると発生しやすい傾向があるのかもしれないので、親としても注意し未然防止に協力していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故の未然防止に係る取組の徹底を図るとともに、生徒の「自律」を育む教育活動の充実に努める。</li> </ul>
		(2) いじめアンケートを年2回実施すると共に、学年団と連携して面談を実施する。	(2) 予定通り実施することができ、各学年ごと面談を実施した。		(2) 次年度以降も年2回実施すると共に学年団と部活動との連携を密にして未然防止に努める。		
		(3) 多様な健康課題を抱える生徒に対応し、体罰・いじめを防止するため、SCによる面談とメンタルサポート委員会を実施。(1回/月)	(3) 面談、委員会ともに、年間計画通り実施し、個々の健康課題の解決や情報の共有に努めた。	A	(3) 個々の健康課題に適切に対応できるよう、時機を考慮しつつ進めて行く。		
3	キャリアステージにおける自己実現能力の育成	(1) キャリア教育実践プログラムに基づいた計画的・系統的な活動をおとして自己理解を深めるとともに職業観と勤労観を育成する。	(1) 特に2年生のインターンシップや1・3年の進路講話等通し職業観、勤労観を育んだ。	B	(1) キャリアガイダンスブックを有効活用し、自己理解、進路指導に役立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ後に礼状をいただくが、企業側への要望等も書いてほしい。</li> <li>・インターンシップに協力したい企業は多く、可能であれば柔軟に依頼先を検討してほしい。</li> <li>・ポートフォリオ等の活用が必要。</li> <li>・進学先の70%が県内で、卒業後は県内企業に就職している。より高度な技術を身につけて、本県に貢献していると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業高校における「社会に開かれた教育課程」の構築を踏まえ、地域との協働・連携を深め郷土愛を育み、地域創生につなぐ実践に取り組む。</li> </ul>
		(2) 外部模試等（4回/年）を活用し、基礎学力定着・学力向上を図るとともに学力分析を行い、より効果的な進路選択能力を培う。	(2) 各学年ともに、計画通り実施し、基礎学力の定着度の確認、自己分析、クラス分析を行った。		(2) 外部模試の事前指導や結果に対する振り返りの時間を大切に、進路指導に役立てる。		
		(3) 高大連携を密にし、新大学入試対策に取り組むとともに、大学の出張講義（2回/年）を活用した科学技術の専門知識の習得を図る。	(3) 山大、産技短との職員間の打ち合わせを行い、情報交換ができた。山大的出張講義を2度実施し、100名以上の生徒が参加した。		(3) 出張講義の講師選定を早期に行う。また、教員研修を実施し入試改革情報を得る。		
		(4) 面談や進路指導室を利用した進路に係る情報を収集・活用できる力を育む。	(4) 集会で、積極的な進路指導室の利用を促し、昼休みや放課後の利用が増えた。	(4) 1、2年生の進路指導室の利用を増やすとともに、早期進路目標の設定に支援する。			
		(5) 読書活動の活性化(5冊以上/生徒一人あたり)と図書館報「そら」、及び図書館だより（年5回）の発行。	(5) 年度末までに、生徒一人当たり平均して4.9冊前後の貸し出し割合の見込みとなることから、概ね目標は達成していると言える。また図書館だよりは6回発行することができ、図書館内の諸活動や新刊図書を校内に広めることができた。図書館報「そら」については2月中に発行。	B	(5) 次年度も、生徒一人当たり5冊以上の貸し出しを目標に、図書館だより等を通じて、生徒の読書活動の活性化を行う。		
4	地域学校協働活動推進と魅力ある学校づくり	(1) 「チーム山工」のもと部活動の積極的な活動を促し、全国大会出場への50名以上を目標とする。また、全国大会において2つ以上の入賞を目指す。	(1) 現時点でのべ30名の出場を果たすことができた。しかし入賞はない。春の選抜大会には柔道部がすでに出場を決めている。スキー部や水球競技での出場も期待できる。	B	(1) 新校舎もほぼ完成し有意義な部活動となるために顧問間の連携を密にし有効的な施設の使用法を見出す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山工元気プロジェクトIIの横の連携は素晴らしい活動内容である。評価Aでもよいぐらいと感じる。</li> <li>・PTAレクリエーションの実施は、学校、保護者双方ともに負担の軽減を図ることが大切である。その一方で今後も継続したいとの声も保護者がある。今後は、直答を考慮して検討してほしい。</li> <li>・山工が地域に貢献できる余地は多いと考える。地域との連携の中で、積極的に山工の強みを発揮してほしい。</li> </ul>	
		(2) 植木・花笠まつりや除雪等のボランティア活動（前年度以上の参加）をおとした郷土愛の育成。	(2) 植木まつり清掃ボランティア参加者は、生徒217名、保護者4名、教員23名で昨年度より全体で20名減少した。花笠パレード参加者は、生徒80名、保護者6名、教員9名で昨年度より全体で25名増加した。	A	(2) 花笠パレード参加は今年度で7年連続となる。しかし、Tシャツや花笠購入など30万円程の経費が必要であり、地域参加活動への参加意識が高い山工生の支援が必要である。		
		(3) ホームページ等による保護者や地域への情報提供の充実を図る。（月1回の更新）	(3) 月平均にして、3回以上のホームページ更新を行うことができ、保護者や地域の方々への情報提供の充実を図ることができた。	A	(3) 次年度は、月2回以上のホームページ更新を目標として、引き続き関係各所からの情報を、ホームページを通して、保護者や地域の地域の方々に迅速な情報提供を行う。		
		(4) 「山工元気プロジェクトII」（2年目/4年）において、計画に基づきキャラクターの商標登録、試作した製品の商品化を目指しつつ適宜に活動報告を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しいたけの植菌、ホダ木の仮伏せ、高電圧刺激印加</li> <li>・しいたけハウス、竹チップ発熱小屋の製作</li> <li>・竹チップ発熱の経過観測システムの製作</li> <li>・山工キャラクターの商標登録出願（審査中）</li> <li>・マカロニゴキブリ実験</li> </ul>	B	(4) 竹チップ発熱を効率よく取り出すシステムの開発、収穫したシタケの利用方法の開発、キャラクターの活用機会の増加、について保護者、企業、教育連携機関とこれまで以上に開いて意見交換を行い推し進める。		
		(5) 生徒の諸活動と成長を支えるPTA会員の協力体制を固めるため、会員間の親睦を図る「PTAレクリエーション」を開催する。	(5) PTA係役員との綿密な計画準備と連携により、参加の方々に楽しんで頂ける会となった。ただ、参加人数はここ数年で最少、全会員の1割に満たない状況である。	B	(5) 保護者の皆様のご都合、休日も様々な大会や試験が入る学校の状況、全校生への還元となるPTA会計等を思い合わせ、開催の有無を検討する。		